

9月豊橋市議会傍聴記

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

■失格判断基準制度
寺本泰之氏(紘基会)は今回も、入札価格が低いだけで低入札価格調査もなく失格にする失格判断基準制度を改め、調査して適正な積算内容であれば契約可能とする一般競争入札に改正する考えはないかと迫った。

財務部長は「失格判断基準は、低入札価格調査制度の実効性を高めるために、低入札の数値的判断基準の一つとして採用しているものであり、地裁、高裁でも市の主張したことが認められ控訴棄却さ

製を風化させることのないようにする」とが重要」と答えたが、星野氏は豊橋空襲で亡くなった624人の御霊を追悼するためにも、豊橋市がもっと主体的に平和行政に取り組みべきだと力説した。

東三河のリーダー 議会の範を示せ!

■平和行政
星野隆輝氏(まちはフォーラム)は、戦争体験者が少なくなっていく中で豊橋市が果たす役割や豊橋空襲を後世に伝える必要性について取り上げた。

■建設業界の窮状
市原亨吾氏(自民)は、今年度からの公契約条例施行に伴う公共工事の課題や、地域の安全安心を守る役割から、建設業界の労働環境や公共工事の平準化、さら

には後継者不足、建設労働者の高齢化や不足などを挙げ、建設業界の厳しい実態を問題にした。

■保育行政
中西光江氏(共産)は3歳未満児保育の状況や課題から保育行政について聞いた。

■地域猫活動
尾林伸治氏(公明)は地域猫の現状と課題について、無責任に放置される猫が多い中で、動物愛護の観点から公園管理者と保健所に認識と対応を聞いた。

60分の許される質問時間を目いっぱい使って市民の声を代弁しようと汗をかく議員もいれば、質問時間を24分、ましてや39分も残して降壇する議員もいた。

祖父や叔父の話聞いて育った星野氏の主張は共感できた。

■小学校の統廃合
長坂尚登氏(豊橋だいいすき会)は小学校52校の児童数、設立順、校舎の古い順、小学校の近接順から

ことになると考えているようだが、小学校は地域活性化の核であり、統廃合は地域の衰退と直結することは過疎地の実態が物語る。それに歯止めをかけるための、地方創生戦略でないのか。議論すべきはその戦略ではないのか。

とし、「チャイルドサポート」を子ども未来館に配置し、保育利用相談だけでなく、様々な悩みに対応し、妊娠・出産・子育てまで切れ目なくサポートしていることを示した。

都市計画部長は「動物愛護の観点からホームレス猫を地域猫として取り扱っていく必要がある」とし、健康部長は「飼い主のいない猫を餌やりなどのルールに基づいて適切に管理する地域猫活動を支援する立場から、不妊去勢手術費補助金を交付している」とした。

尾林氏は地域猫活動を実施しようとする人々への支援を要請したが、「殺処分ゼロ」への道程は住民の理解も含め、まだまだ遠い。